



第 3 章

計画の基本的な考え方

第 1 節 基本理念と全体目標

【 基 本 理 念 】

どの世代も健康で生きがいをもち
食を楽しめる都市 川口

本計画の基本理念は「川口市健康・生きがいづくり計画（第二次）」策定において、基本理念として掲げていた「健康で生きがいをもって暮らすことができる都市・川口」と「川口市食育推進計画（第2次）」策定において、基本理念として掲げていた「笑顔の食事がつなぐ明日の元気」を考慮したものです。この計画では、「ライフコースアプローチ」を踏まえ、どの世代でも市民一人ひとりが健康で生きがいをもち、食を楽しむまちづくりを推進します。

市民一人ひとりが健康で生きがいをもち、食を楽しむまちの実現のためには、健康上の問題で日常生活が制限されることなく生活できる期間（＝健康寿命）をできるだけ長くしていくことが重要です。

また、自分自身の健康管理や食生活、運動などの取組による健康づくり活動だけではなく、こころの健康づくりや生きがいづくりを進めていくことは、健康でいきいきとした暮らしを継続し、健康寿命を延伸することにつながります。

こうしたことから、本計画においては、計画全体の成果指標を「健康寿命の延伸」とします。

成果指標	調査内容	対象	現状値 (R4)	中間目標 (R12)	最終目標 (R17)
健康寿命の延伸	65 歳健康寿命	男性	17.40 年	18.12 年 (令和 4 年度時点 県健康寿命)	中間目標値 以上
		女性	20.59 年	21.03 年 (令和 4 年度時点 県健康寿命)	中間目標値 以上

なお、本計画では、生活習慣に大きく影響する就学・就業の時期等を考慮した3つのライフステージとして「こども」「働く世代」「高齢者」を設定しています。それぞれのライフステージにおける特徴的な健康課題やそれに対応した取組が、将来、次の世代に進んだ時に予測される生活習慣病等の健康課題を未然に防ぐことができる効果的な取組となるよう、ライフコースアプローチを意識した健康づくりを推進します。

あわせて、「女性」については、ライフステージごとに女性ホルモンが大きく変化するという特性を踏まえた取組を推進します。

ライフステージ	対象
こども	乳幼児期・学齢期・青年期（0～20 歳程度）
働く世代	成人期・壮年期（20～65 歳程度）
高齢者	高齢期（65 歳以上）
女性	すべての女性

SDGs（持続可能な開発目標）について

第5次川口市総合計画では、SDGs（持続可能な開発目標）の考え方を取り入れ、市の立ち位置や状況を客観的に分析するとともに、施策にSDGsの目標を関連付け、持続可能な都市経営に取り組むこととしています。

本計画においても、SDGsの考え方を踏まえ、各施策の推進を図ります。

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



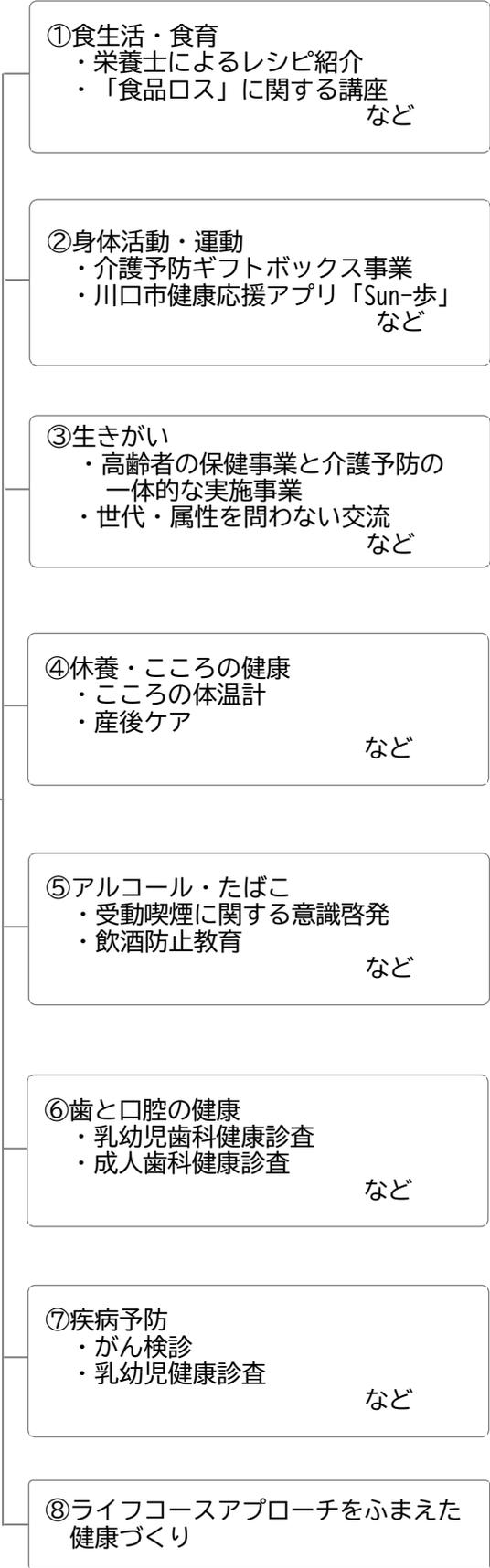
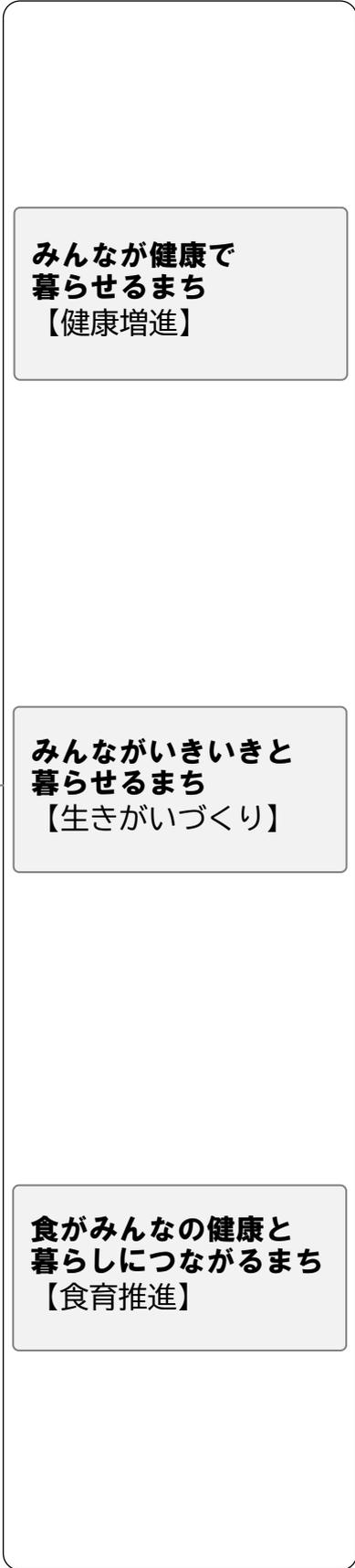
第2節 計画の全体像

[基本理念]

[基本目標]

[取組施策]

どの世代も健康で生きがいをもち
食を楽しめる都市 川口



第3節 基本目標に関する指標（成果指標）一覧

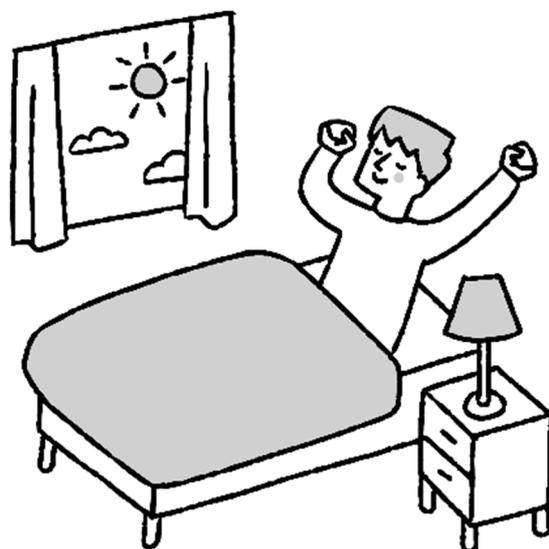
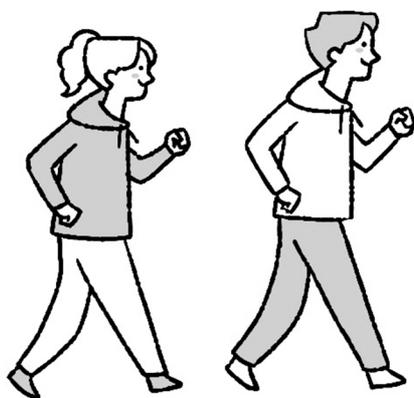
基本理念を実現するために、「健康日本 21（第三次）」で提唱されている基本目標を考慮するとともに、「健康増進」「生きがいづくり」「食育推進」に対して、次の3つを本市の基本目標として掲げ、目標を達成するための取組を推進します。

<基本目標1> みんなが健康で暮らせるまち【健康増進】

健康づくりの土台となる疾病等の予防のため、生活習慣や運動習慣の改善の取組を推進します。

成果指標	内容	対象	現状値 (R5)	中間目標 (R12)	最終目標 (R17)
健康意識の向上	自分が健康だと「とてもそう思う」「ややそう思う」人の割合	小学生	88.5%	90%	中間目標値以上
		中学生	83.2%	90%	中間目標値以上
		成人	67.6%	75%	80%
がんの年齢調整死亡率の減少 (人口10万人対)	埼玉県地域別健康情報 (平成30～令和4年)	男性	161.3	現状値以下	中間目標値以下
		女性	88.4	現状値以下	中間目標値以下
運動習慣者の増加	学校の体育の授業以外で運動やスポーツを「ほぼしていない」人の割合	小学生男子	7.4%	4.4%	中間目標値以下
		小学生女子	16.0%	7.2%	中間目標値以下
		中学生男子	11.0%	3.9%	中間目標値以下
		中学生女子	28.0%	9.1%	中間目標値以下
	1回30分以上の運動を週に2回以上実施し、1年以上継続している人の割合	20～50歳代男性	26.7%	38%	50%
		20～50歳代女性	21.1%	36%	50%
		60歳代以上男性	41.8%	46%	50%
		60歳代以上女性	36.2%	43%	50%

成果指標	内容	対象	現状値 (R5)	中間目標 (R12)	最終目標 (R17)
生活習慣病のリスクを高める量の飲酒をしている人の減少	1日あたりに摂取する純アルコール量が男性40g以上、女性20g以上の人の割合	20歳以上男性	11.4%	10.7%	10%
		20歳以上女性	11.2%	8.8%	6.4%
望まない受動喫煙のない社会の実現	たばこを吸うときに「とくに気にしていない」人の割合	成人	1.8%	0%	0%
睡眠で休養がとれている人の増加	睡眠で休養が「とれている」「だいたいとれている」人の割合	就学前保護者	60%	70%	80%
		小学2年生保護者	54.3%	67%	80%
		小学生	85.5%	現状値以上	中間目標値以上
		中学生	75.5%	78%	80%
		成人	66.4%	73%	80%
歯科健診受診率の増加	過去1年以内に歯科健診を「受診した」人の割合	成人	56.2%	76%	95%



<基本目標2> みんながいきいきと暮らせるまち【生きがづくり】

社会が多様化することや、人生100年時代が本格的に到来することを踏まえ、ライフスタイルや心身の状況等、年代の特性に応じ、こどもから高齢者まで一人ひとりが、いきいきと暮らせるための働きかけを行うことで、こころの健康の維持及び向上を図ります。

成果指標	内容	対象	現状値 (R5)	中間目標 (R12)	最終目標 (R17)
生きがいをもつ人の増加	日ごろ、生きがいをもって生活していると「思う」「どちらかといえば思う」人の割合	成人	68.8%	75%	80%
社会とのつながりをもつ人の増加	趣味や楽しみにしていることを一緒にする人が「いる」人の割合	成人	64.4%	65%	中間目標値以上
相談者や相談場所がある人の増加	悩んだときや困ったときに相談できる人や場所が「ある」人の割合	小学生	82.3%	現状値以上	中間目標値以上
		中学生	78.8%	現状値以上	中間目標値以上
		成人	73.3%	現状値以上	中間目標値以上



<基本目標3> 食がみんなの健康と暮らしにつながるまち【食育推進】

最も身近な食育を実践する場である家庭から、学校や幼稚園・保育所（園）・認定こども園等、地域へと取組をひろげ、こどもとその親、若い世代を含めた健全な食習慣を確立するとともに、こどもから高齢者に至るまでの生涯を経時的に捉えた食育を推進します。また、食育活動を通じて、郷土料理、伝統料理、多様な食文化を次世代へ継承していきます。

成果指標	内容	対象	現状値 (R5)	中間目標 (R12)	最終目標 (R17)
バランスを考えた食事をとる人の増加	主食、主菜、副菜を組み合わせた食事を1日2回以上「ほぼ毎日食べている(6~7日)」人の割合	成人	61.2%	現状値維持	現状値維持
朝食を欠食する人の割合の減少	朝食を「ほとんど食べない(0~1日)」人の割合	小学生	4.1%	0%	0%
		中学生	6.3%	0%	0%
食事の時間が楽しいと思う人の割合の増加	「とてもそう思う」「ややそう思う」人の割合	小学生	90.6%	現状値維持	現状値維持
		中学生	88.0%	現状値維持	現状値維持
		成人	83.4%	現状値維持	現状値維持
食品の安全に関する知識向上	食品の安全に関する知識が「十分に持っている」「ある程度持っていると思う」人の割合	成人	63.1%	80%	80%
食育に関心がある人の割合の増加	食育に「関心がある」「どちらかといえば関心がある」人の割合	成人	65.8%	90%	90%

【取組施策ごとの評価指標について】

これらの基本目標に基づく各取組施策については、施策の活動目標となる評価指標を設定します。

評価指標は、計画の中間評価までの今後6年間の取組の目標を定めるもので、中間評価時における計画の進捗状況を踏まえ、最終評価に向けた目標を改めて設定するものとします。